運動会

小町

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
運動会

【Ｎコード】
Ｎ６９７８Ｅ

【作者名】
小町

【あらすじ】
運動会中で感じたこと。日陰側の人間

種々様々な金魚が供宴する中、私はそれを見ているだけだった。
金魚は、一生懸命かつ優雅にヒレを動かし”エサ”を求めてひらひらと舞う。彼らは周りに合わせて踊り、その踊る周りを見てさらに踊り狂う。踊りは極限を向かえて行き、狂気さえ感じる。
色鮮やかに輝く彼らは、私から見ても美しい。ひらひら舞うヒレには儚さを感じ、不規則に舞う身体には生命を感じることができる。
そんな彼らには、楽しいという喜びだけがあり、アツい熱が周りを覆う。そして他者と自己の感情が一体化していく、時が経つにつれてそんな感覚を彼らは共有する。地球がココを中心に回ってるという錯覚すら覚えている。
周りには自分達の群れしか見えず、省みることも無い。群れ以外の他者を徹底的に排斥し、他の者が入り込むのを嫌う。
そんな彼らに対して私には、羨ましいという感情も確かにあるが、見下す感情もあった。
なぜなら彼らは自由ではあるが、それもこの水槽という限られた中だけの話。少し状況が変われば、すぐに崩壊する儚いモノ。温度が変われば、水質が変われば、エサが少なくなれば、この供宴は一変してしまう。供宴は終焉を向かえて対立が始まるかもしれない。
一方、彼らに比べ自由な私。しかし彼らにとって私は、彼らが描くモノの余分を消した時に出る、消しカスを集めた歪な存在。じきに忘れられる存在にすぎない。
だから私は黙って、彼らから流れる汗を吸うタオルを眺めていた。

（後書き）

批評お願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6978e/

運動会

2011年1月27日02時11分発行